

【基礎講義】

ファイナンシャル・リテラシーを鍛える  
金融情報への接し方とは？

林健太郎  
林FP事務所

# なぜ「情報への接し方」が必要なの？

「金融」は形のないもの → 情報が重要な役割を担う。情報の扱い方（情報リテラシー）は金融リテラシーを高める重要なポイント。

情報リテラシーとは大きく

1. 情報を探し出す
2. 情報を正しく理解し活用する（←今回）

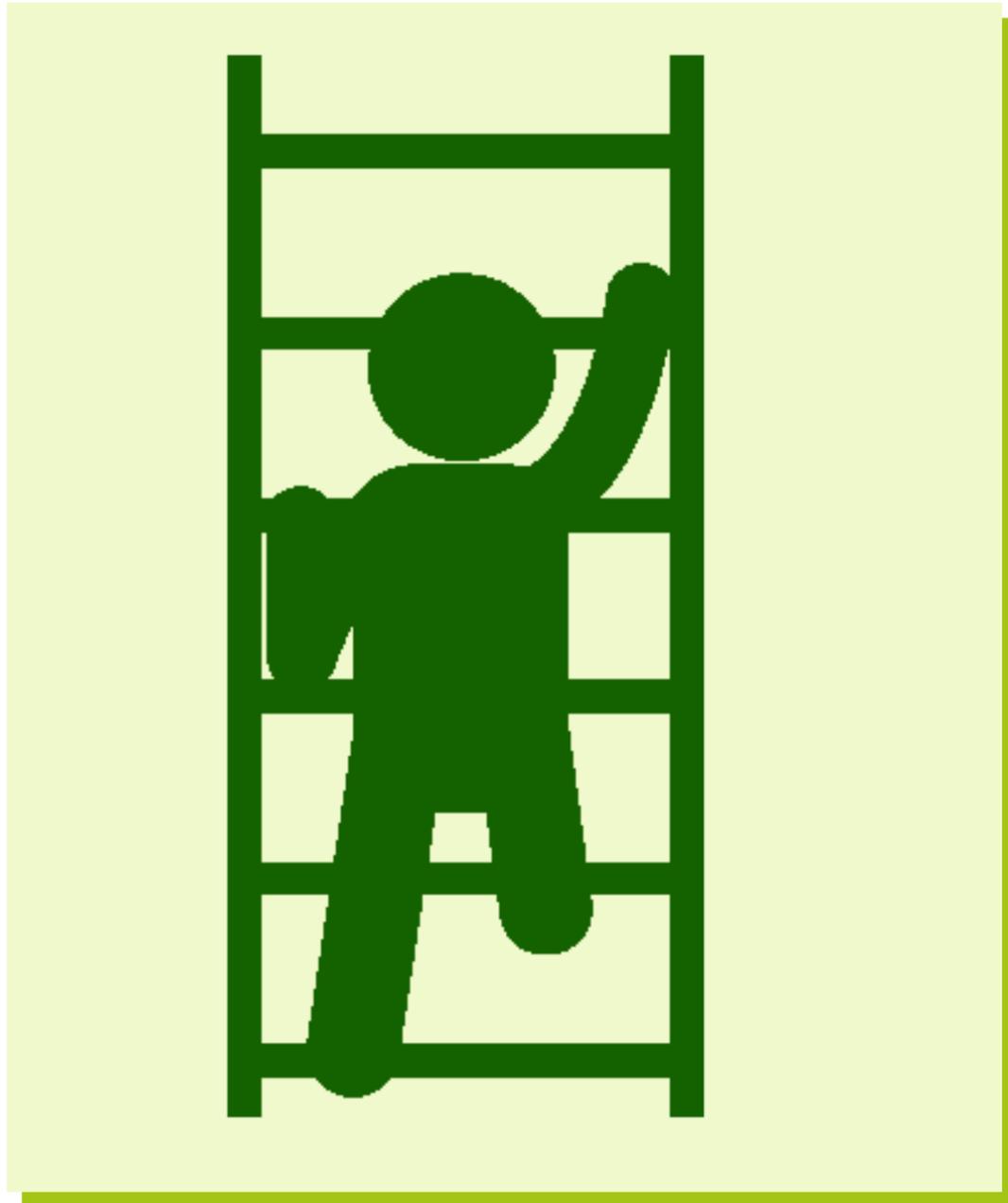
## 新型コロナウイルスの影響で、紙製品が品切れになる

- これは誤った情報
- 「製紙会社の株価が上昇する」は誤った情報の上での推測
- →重要な情報は「事実確認（ファクトチェック）」されているかどうか確認する
  - 公的機関のHPや報道機関、ファクトチェックイニシアチブ（fij.info）などの情報を確認

## 年利回り12%の好金利預金

- 誤ってはいないが、誤解を招きやすい、理解しにくい情報（紛らわしい）
- 通常年利回りと言われれば1年間もらえると思いがちだが、よく見ると...
  - 当初1ヶ月間1%金利（税引き前）、預金額100万円まで
  - 手数料3%の投資信託100万円以上とのセット販売
- →ぱっと見てすぐに判断するのではなく、詳細を確認してじっくり考える

# あわてて判断、決断しないことの重要性



## ■ 「推論のはしご」

- **認識** ツバメが低く飛んでいる
- **解釈** 水分のためツバメの餌の虫が低く、ツバメも低く飛ぶ
- **前提** 湿度が高いだろうから今日は雨が降るかもしれない
- **結論** 雨のときのために折りたたみ傘を持つべき
- **信念・世界観** ツバメが低く飛んだら雨が降る
- **行動** 折りたたみ傘を持つ
- (「学習する組織入門」小田理一郎より)

## ■ 抽象化の飛躍

- 「利回りが高い預金は無条件に得」という世界観が、解釈や前提から目をそらす→結論が飛躍する
- 「短い時間でよく考えない」ことが主な原因

## ■ 現代はこうした飛躍が起きやすい環境

- **情報量が多い** →処理が追いつかない
- **短時間で結果を求められる** →時間が足りない
- →このような環境だからこそ、あえてじっくり考えることが大切
- **勧められてもその場で結論を出さず、一旦自宅に持ち帰る** →誰かに相談するのも有効

# 学びの姿勢



## ■ 「疑問を絶やさない」

- 常に「ほんとうかな？」と疑ってみる → 科学的な態度
- 「年12%なんて、いまだき信じられない。ほんとうかな？」
- しんどいけど、意識的にやってみる

## ■ 学び続け、常にブラッシュアップする

- 今まで築いた信念、世界観が間違っているかもしれないし、古くなっているかもしれない
- 世の中はどんどん変化するし、新しい情報も絶え間なく出てくる → 古い情報、古い価値観では対抗できない場合がある
- 学びを促進させる（環境、仲間、etc）

# 金融情報への接し方

## まとめ

### 1. 偽情報、紛らわしい情報への対処

- 事実確認（ファクトチェック）をする、または事実確認された情報にあたる
- 紛らわしい情報は「じっくり考える」

### 2. 推論のはしご

- 強い信念、世界観が邪魔になる場合がある
- 慌てて登らない！（抽象化の飛躍を起こさない）

### 3. 学ぶ

- 疑問を絶やさない（科学的な態度）
- 時代に合わせて常に知識、学びを更新していく
- 学ぶ環境や仲間も重要

# プロが教える資産形成の入門書 無料プレゼント中！



詳しくはこちら



<https://xn--vck0b9h632vz0vb.jp/presentpdf>

林健太郎  
林FP事務所